

英国ロンドンにてシンポジウム「スポーツと外交」を開催

“Sports and Diplomacy ~Past Reflections and Looking Toward 2020~”

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、英国ロンドンにて5月15日（月）、一般公開シンポジウム「スポーツと外交」を、当基金ロンドン日本文化センター、ロンドン大学 SOAS（School of Oriental and African Studies：東洋アフリカ研究学院）日本センター、及び日本スポーツ振興センターロンドン事務所と共催で開催いたします。

ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピック協議大会といった国際的な大規模競技会の日本開催を控え、政府が中心となって「スポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）」を推進しようとする中、本シンポジウムはスポーツの持つ力を外交の観点から検討しようという、まさに時宜を得たものです。

ロンドン大学 SOAS は、英国の日本研究をけん引してきた英国有数の高等教育機関であり、開校 100 周年を迎えています。本シンポジウムにおいては、SOAS 気鋭の研究者が、1964 年東京オリンピック（・パラリンピック）大会の開催が日本にとってどのような国際社会への発信の場であったかを学術的に検証し、英国の前スポーツ大臣が英国の事例を紹介します。さらに、日本からはスポーツ庁から木村哲也審議官を迎え、大規模競技大会開催を通じた国際社会への貢献のあり方を検討いたします。

つきましては、この機会にぜひ貴媒体で本事業をご紹介いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。本事業の実施により、今後開催を控えている国際的な大規模競技会の日本開催に向けて一層関心が高まることを期待しております。また、本事業に関するお問い合わせにつきましては、次頁に記載しております独立行政法人日本スポーツ振興センター広報室までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

記

- 【日 時】 2017年5月15日（月）17時45分～19時30分（現地時間）
【場 所】 ロンドン大学 SOAS Brunei Gallery Lecture Theatre
【使用言語】 英語
【主 催】 国際交流基金ロンドン日本文化センター
ロンドン大学 SOAS 日本センター
日本スポーツ振興センターロンドン事務所

以上

NEWS RELEASE

平成29年5月2日
独立行政法人日本スポーツ振興センター広報室

シンポジウム「Sport and Diplomacy」を開催 ～Past Reflections and Looking Toward 2020～

報道関係各位

日本スポーツ振興センター(JSC: JAPAN SPORT COUNCIL 理事長 大東和美)は、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(the School of Oriental and African Studies : SOAS※1)並びに(独)国際交流基金(JF)ロンドン日本文化センター(※2)と、スポーツと外交をテーマにしたシンポジウム「Sport and Diplomacy」を開催します。

ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の日本開催を控え、「スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)※3」を日本政府が中心となって推進している中、スポーツと外交が注目され始めています。そこで、このシンポジウムではスポーツの持つ力を外交の観点から検討します。

共催者である SOAS は、2016 年-17 年が開校 100 周年にあたる、開発学や日本研究分野において高い評価を得ている高等教育機関です。SOAS には、1964 年東京大会の開催が、日本にとってどのような国際社会への発信の場であったかを紹介いただきます。また日本からは、SFT 事業推進の中核であるスポーツ庁より木村徹也審議官を迎え、大規模競技大会開催を通じた国際社会への貢献のあり方について検討します。

JSC ロンドン事務所では、設立以来 2012 年ロンドン大会に向けた日本選手団の支援のほか、英国を中心とするスポーツ政策の動向調査、2012 年大会後のレガシーなどの情報収集を行ってきました。英国有数の研究機関である SOAS 及び日本語普及・日本研究の支援、日本文化の発信に寄与する活動を行っている JF と共催するこの度の機会は、JSC ロンドン事務所にとり、スポーツを通じた国際貢献についてメッセージを発信する有益な機会となることを目指して実施します。ぜひ、周知のご協力をお願い申し上げます。

記

- 日 時： 平成 29 年 5 月 15 日(月) 17:45～19:30(現地時間)
- 場 所： SOAS Brunei Gallery Lecture Theatre, Thornhaugh St., London, WC1H 0XG
- 聴 衆： 研究者、学生、日英の関係者ほか ■ 言 語： 英語
- 主 催： SOAS / JF ロンドン日本文化センター / JSC ロンドン事務所

※ 現地での取材を希望される場合は、下記問い合わせ先にご連絡ください。

JSC ロンドン事務所 佐野 総一郎
Tel : +44 (0) 74 1418 2389 (事務所代表電話)
Email : londonoffice@jpnssport.go.jp



SPORT
FOR
TOMORROW

- 独立行政法人日本スポーツ振興センターホームページ
<http://www.jpnsport.go.jp/>
- スポーツ・フォー・トゥモローホームページ
<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

＜ お問合せ先 ＞

独立行政法人日本スポーツ振興センター
広報室 熊谷・安藤
〒107-0061 東京都港区北青山 2-8-35
TEL:03-5410-9121 FAX:03-5410-9173

Sport and Diplomacy

~Past Reflections and Looking Toward 2020~

スケジュール

5:30pm Doors open

5:45pm **Welcome Remarks**

Professor Richard Black, Pro-Director, SOAS University of London

Ms Mana Takatori, Director General, Japan Foundation London

Mr Soichiro Sano, Director, Japan Sport Council London

Dr Helen Macnaughtan, Chair, SOAS Japan Research Centre

Speakers:

6:00pm **“Sports and Diplomacy – an introduction”**

Dr J Simon Rofe, SOAS University of London

6:15pm **“From Tokyo 1964 to Tokyo 2020 – an overview of Sporting Events in Japan”**

Dr Helen Macnaughtan, SOAS University of London

6:30pm **“Sport for Tomorrow: Power of Sport from Japan beyond 2020”**

Mr Tetsuya Kimura, Director-General, Japan Sports Agency

7:00pm **"After London 2012 : Olympic legacy and sport in the UK"**

Mr Richard Caborn, Former Minister of Sport

7:15pm **Q&A**

**SPORT
FOR
TOMORROW** 

※1 ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(the School of Oriental and African Studies :SOAS)について

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院は、アジア、アフリカおよび中近東研究に特化した高等教育機関としては欧州唯一の存在であり、当該地域の言語、当該地域に関する研究を専門とするアカデミックスタッフの数は欧州随一の規模を誇る。SOASの研究者は、当該地域に暮らす全人類の3分の2余の人々が直面する、民主主義、開発、人権、アイデンティティ、法体系、貧困、宗教や社会変革といった諸課題に取り組み、英国の他の教育機関では学ぶことのできない、言語、時代、地域等に関する専門的知見の砦となっている。

ウェブサイト <https://www.soas.ac.uk/>

※2 国際交流基金ロンドン日本文化センターについて

独立行政法人国際交流基金(The Japan Foundation:JF)のロンドンにおけるオフィスとして、日本と英国の文化交流促進のため大型事業、公演、セミナー、ワークショップ等を英国各地にて開催するほか、日本語教育や、日本研究振興のため、学校や大学に対する様々な支援を実施している。

ウェブサイト <http://www.jpf.org.uk/>

※3 スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)について

- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催国として、2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100カ国以上の国において、1,000万人以上を対象に、世界のよりよい未来のために、未来を担う若者をはじめ、あらゆる世代の人々にスポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていく取り組み。外務省とスポーツ庁が連携し日本国政府が主導するプログラムである。
- ・ このプログラムを、日本国政府として着実に実施していくことは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた我が国の国際公約の一つ。
- ・ 行政機関、関係団体、大学等が保有している知見の交換、各機関の連携協力を促進し、国際社会にスポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていくことを目的に、スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム(SFTC)を形成している。
- ・ SFTCには平成29年4月11日現在で300団体が加盟している。

※4 Mr Richard Caborn について

- ・ 同氏は、英国労働党の国会議員として1983年から2010年まで活動。2001年から2007年までは長きに渡りスポーツ担当閣外大臣を務めたほか、2007年には首相の特使として2018年FIFAサッカーワールドカップ招致に携わった。
- ・ 2014年からはシェフィールド市における様々な活動に関わっているが、その中にはシェフィールドに設置された五輪レガシー公園の責任者としての活動も含まれる。
- ・ 議員時代には、自ら積極的にマラソン大会に参加したほか、地元サッカークラブの支援も行った。